

# 令和4年度事業報告書

自 令和 4年 4月 1日  
至 令和 5年 3月31日

## 事業の概要

令和4年度は、前年度に比べて新型コロナウイルスに対する政府の規制が緩和されたが、公益事業は少なからずその影響を受けた。また、コロナ禍の影響として、公益活動を行う上でWebの活用が進み、講演会のライブ配信や収録したビデオ等の配信も実施した。

さて、近年マイワシ資源量が増大傾向にあり釧路沖のまき網漁は2021年、2022年とまとまった漁獲量になった。しかしながら、水揚げされたマイワシの成長悪化が指摘されており、今後、マイワシの資源量とともに棲息に適した海洋環境が形成されるかどうか気懸りなところである。

当協会では魚油及び魚粉の生産状況を迅速に把握するため、(公社)日本フィッシュ・ミール協会の協力を得て、2022年の各魚粉工場から提供される生産データをまとめる方式で調査を行った。データの詳細は後述の『2022年 水産油脂統計年鑑』に収載するが、魚油・魚粉の生産実績の概要は下表のとおりである。

	2021年	2022年	前年比	
<b>1. 原料処理量</b>				
ラウンド	279,561トン	230,990トン	82.6%	
残滓	672,229トン	619,973トン	92.2%	
合計	951,790トン	850,963トン	89.4%	
<b>2. 生産量</b>				
			歩留	
魚油	78,840トン	66,521トン	(7.8%)	84.4%
魚粉	204,851トン	186,533トン	(21.9%)	91.1%

この他、魚油等油脂に関連するデータとして、国内・国外における漁獲量、各国の魚油・魚粉の生産量、輸出入量及び価格、植物油等の消費量、養殖魚及び養魚飼料の生産量等の収集を行った。また、主要港で水揚げされたマイワシ、カタクチイワシ、マサバの栄養成分を中心とした化学分析を(一財)日本食品分析センターに依頼し調査を行った。これらの調査データについては取りまとめを行い『2022年 水産油脂統計年鑑』として2023年6月に刊行を予定している。

講演会のうち「水産油脂資源講演会」は会場に聴講者を入れて開催、その収録ビデオを配信し、「水産油脂技術懇話会」はWebセミナーの形で実施した。これらは『水産油脂資源講演会記録』と『水産油脂技術懇話会記録』として刊行した。また、これまでDHA・EPA協議会と共催で開催していた「公開講演会」は、聴講者を入れて開催すると同時にオンラインでも配信した。定期刊行物としては『2021年 水産油脂統計年鑑』と関心の高いテーマなどを取り上げた『JMOAレポート』を刊行した。ホームページは重要な情報発信のツールとして随時更新した。

## 1. 調査研究

### 1) 国内外の水産油脂及び関連する物資の資源・生産・流通・消費等についての調査

- ① (公社)日本フィッシュ・ミール協会に2022年における国内の原料処理量、魚油・魚粉の生産量・用途について調査を依頼した。
- ② 国内外の資料を収集し漁獲量、魚油・魚粉の生産量、輸出入量及び価格を調査した。また、魚油・魚粉の消費と関わりのある配合飼料生産量や水産養殖等のデータを取りまとめた。

### 2) 水産油脂及び関連物資の機能・性状及び加工利用等に関する調査研究

- ① 銚子港(千葉県)に水揚げされたマイワシ、カタクチイワシ、マサバ並びに釧路港(北海道)に水揚げされたマイワシについて一般成分、脂肪酸組成等の脂質成分を分析した。
- ② 国産魚油の性状及び脂肪酸組成等について分析した。また、国産・輸入魚粉についても基礎成分をはじめアミノ酸組成等を分析した。

## 2. 広報出版

### 1) 講演会等の開催

- ① 水産油脂の資源及び流通に関する講演会

2022年8月26日、「令和4年度水産油脂資源講演会」を渋谷区文化総合センター大和田伝承ホールにて開催した。開催に際しては新型コロナウイルスの感染予防対策を講じた。講演会の模様はビデオ撮影し、後日オンラインで配信した。

#### 【演題及び講師】

「食生産のゲームチェンジャー 細胞水産業・培養魚肉の最前線」  
特定非営利活動法人日本細胞農業協会

理事 杉崎 麻友 先生

「道東海域における海洋環境変動と浮魚類等への影響」  
国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産資源研究所  
水産資源研究センター 海洋環境部 寒流第1グループ

グループ長 黒田 寛 先生

「コロナ禍の水産物流通への影響と電子商取引の動向」  
東京海洋大学 学術研究院海洋政策文化学部門

副学長・教授 婁 小波 先生

同講演会の内容は、10月5日及び6日の2回オンラインで配信した。

- ② 水産油脂及び関連物質等の研究・開発に関するセミナー

「水産油脂技術懇話会」を令和4年6月23日及び11月24日の2回オンラインで開催した。

#### 【演題及び講師】

「第38回水産油脂技術懇話会」

「n-3 系多価不飽和脂肪酸が運動パフォーマンスに及ぼす効果」  
法政大学 生命科学部・スポーツ健康学研究科

准教授 越智 英輔 先生

「第 39 回水産油脂技術懇話会」  
「血管内皮機能改善作用を有する新たな機能性脂質の同定」  
徳島大学大学院 医歯薬学研究部代謝栄養学分野

教授 阪上 浩 先生

③ DHA・EPA協議会と公開講演会の共催

令和 4 年 10 月 26 日に第 23 回公開講演会を『ヒトの生体機能の調節におけるオメガ 3 の関わり』と題して主婦会館プラザエフにて開催し、Web によるライブ配信を行った。

【演題及び講師】

「リン脂質中オメガ 3 の分子レベルでの生体機能解析～なぜ体に重要な分子なのか?～」  
国立国際医療研究センター 脂質生命科学研究部

テニユアトラック部長 進藤 英雄 先生

「DHA と睡眠の関わり」  
滋賀医科大学 精神医学講座 特任教授／睡眠センター

センター長 角谷 寛 先生

「EPA が人を幸せにする? ～女性医療福祉従事者での検討」  
滋賀県立大学 人間看護学部 人間看護学科

教授 坪井 宏仁 先生

2) 出版

- ① 『2021 年 水産油脂統計年鑑』を 5 月に刊行した。
- ② 『JMOA レポート No.24 水産物などの天然物からの食品・飲料製造への超臨界流体の利用』を 7 月に刊行した。  
[筆者：超臨界技術センター株式会社 取締役／名古屋大学 名誉教授 後藤 元信 氏]
- ③ 『第 38 回水産油脂技術懇話会記録 n-3 系多価不飽和脂肪酸が運動パフォーマンスに及ぼす効果』を 9 月に刊行した。
- ④ 『令和 4 年度水産油脂資源講演会記録』を 1 月に刊行した。
- ⑤ 『JMOA レポート No.25 産学官連携による青森県のサーモン養殖実証事業と大規模養殖技術の活用』を 1 月に刊行した。

[筆者：北海道大学大学院水産科学研究院 地域水産業共創センター

教授 福田 寛 氏]

3) ホームページ

- ① 講演会の開催及び出版物の発刊の案内を随時掲載した。
- ② 「魚油・魚粉の貿易統計」は魚油・魚粉の輸入量・価格などを毎月更新した。

- ③ 定期的にアクセス数をモニターした。総アクセス数は 6 万台から 5 万台に減少した。「知っておきたい基礎知識」の減少が大きく、コンテンツの充実を図る必要がある。

	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
総アクセス	57,552	67,924	61,842	62,547
知っておきたい基礎知識	13,698	19,962	19,077	20,093

### 3. 土地・建物施設等の賃貸及びその維持・管理

- ① 本館及び新館を公益法人に賃貸し管理・運営を行った。  
 ② 本館受変電設備改善工事を 11 月に実施した。  
 ③ 新館各トイレの洗面台に電気温水器設置工事を 1 月に実施した。

### 4. その他、本会の目的を達成するために必要な事業

- ① DHA・EPA協議会の事務局を当会館内に置き、同協議会の活動の支援、協力を行った。  
 ② (公社)日本油化学会・規格試験法委員会へ基準油脂分析試験法の見直し等のため委員を派遣した。  
 ③ 資金運用規程及び資金運用指針に従い資金運用を行い、評価損益及び運用損益はマイナスとなったが、利金は想定を上回った。

### 5. 庶務事項その他

#### <会議>

- ① 定時理事会 3 回  
 ② 定時評議員会 1 回  
 ③ 評議員選定委員会 1 回

#### <その他>

- ① 内閣府に公益目的支出計画実施報告書を 6 月に提出した。  
 ② 賛助員 21 名

以 上